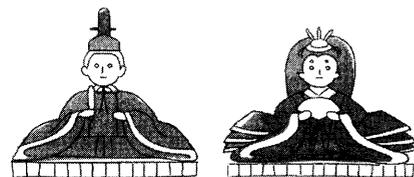
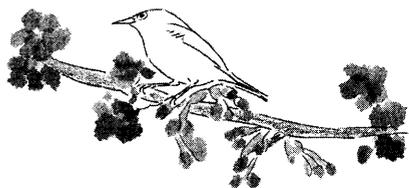


春の石

宮坂静生



土が降る骨片が降る夢の世に  
石切られ無念無想の春の石  
青空を切り出し寒九氷切り  
水鳥の初声聞きに諏訪泊り  
節饗せちあえに鳥の顔して揃ひたり  
東京を発ちて飛雪を漕ぎ帰る



地下鉄の暗渠を渡る春隣  
春障子ひらくいくさ場ばかりの世  
春雪嶺植ゑしごとしや兜太亡し  
鉞まさかりは春雪嶺を彫るために  
火が廻る畳いわしに無数の目  
捨てるため書き置く俳句壬生みぶの鉦かね  
椿の幹鳥の子紙を巻くごとし  
花種を蒔きに独逸へ子は渡り